

2026 冬

金沢市立病院 地域連携室通信



スクラム

Vol.81

《 地域全体で心不全を防ぐ医療の実現を目指して 》

副院長 兼 地域連携室長 村井 久純

平素より、当院の診療ならびに地域医療連携に格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。遅くなりましたが、本年もよろしくお願いいたします。

さて、高齢化の進行とともに心不全患者は年々増加しており、今後ますます「発症後の治療」から「発症前の介入」へと医療の重心を移していくことが重要になると考えております。

当院では本年、**前心不全（心不全予備群）患者への早期介入**を重点目標の1つとして掲げました。高血圧、糖尿病、慢性腎臓病、心房細動、高齢、軽度の息切れや浮腫などを有する患者さんは、まだ心不全と診断されていなくとも、すでに心不全の入口に立っている可能性があります。

こうした患者さんを、かかりつけ医の先生方とともに早期から共有し、

- ・心機能評価やBNP(NT-proBNP)等の検査
- ・治療方針の整理・最適化
- ・生活指導や多職種介入の導入

を連携して行うことで、心不全発症や増悪の予防、入院回避につなげたいと考えております。



「一度専門的な評価だけしておきたい」
「紹介するほどではないが、少し気になる」
「BNP 40 pg/mL 以上、または NT-proBNP 125 pg/mL 以上の場合」

など、どのような段階でも、どうぞ遠慮なくご相談・ご紹介ください。

当院からは、評価後速やかに情報提供を行い、引き続き先生方の外来で安心して診ていただける体制を大切にまいります。

本年も、先生方と顔の見える連携を深めながら、地域全体で心不全を防ぐ医療の実現を目指してまいります。

何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



《 最新 MRI システム「MAGNETOM Avant Fit」稼働開始 》

放射線室 技師 太田 和宏

当院では令和7年12月15日より、新しく Siemens Healthineers 社製の MRI 装置 MAGNETOM Avant Fit を導入しました。最新のソフトウェアおよび AI 画像再構成機能が搭載され、より速く、より鮮明な画像を、簡便に得ることが出来るようになりました。検査時間においては、最大で 50% 程度短縮が可能となり、患者様への身体的・心理的負担も軽減されます。定期検査を受けておられる患者様からは「検査が楽になった」とお声をいただいております。

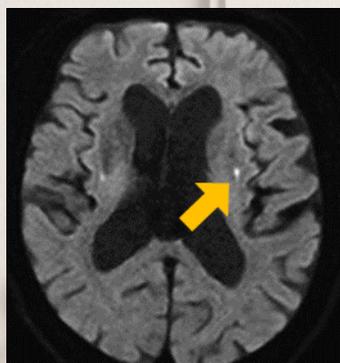
今回導入された AI 画像再構成技術が非常に優秀で、画像のノイズや歪みを劇的に低減しました。特に頭部領域では、拡散強調画像の画質が改善され、脳梗塞急性期等の診断能が向上しました。整形外科領域においては、AI による高分解能化が可能となり、靭帯や軟骨の微細な構造も描出します。



また、高画質化に加え、従来の検査時間よりも早く検査を終えることができるため、ブレの少ない鮮明な画像取得が可能となります。

造影剤を使用せず血管を描出する非造影 MRA 検査においても、適応範囲が拡大し、より簡便に末梢血管まで描出することができるようになりました。患者様に合わせた最適な撮像パラメータの調整を行い、読影しやすい画像を提供します。

とはいえ、やはり MRI 検査は狭い、うるさい、時間がかかるなど、患者様に負担をお掛けする検査であります。騒音が苦手な方には、大きな音を和らげる撮像法もご用意しております。新装置の機能を最大限生かし、患者様が安心・安全に検査を受けていただけるよう、放射線室一同全力でサポートします。MRI 検査に関してご不明・ご不安な事がありましたら、お気軽に当院スタッフにお尋ねください。



微細な脳梗塞も見逃さない！



3T 装置に匹敵する画質！



造影剤を使わずに高画質な血管を描出！



《 電子処方箋の運用 》

薬剤室 薬剤師長 今井 富紀子

当院では、2025年6月より「電子処方箋」の運用を開始しました。医療機関と院外薬局で処方データを共有し、重複投薬や併用禁忌をリアルタイムでチェックできる点は、安全面における大きなメリットです。しかし当初は、HPKIカードの取得やシステム改修といった導入コストもあり、負担が増えるのではないかと懸念の声が上がっていました。

実際に運用を始めてからは、不完全なシステムとの格闘でした。医薬品マスタの不一致による表示の差異、サーバートラブルによる紙運用への逆戻り、そして管理サービスへの接続に数十秒を要するタイムラグ。重複投薬チェックという安全性を得るための代償として診療の流れが滞り、医師が不便を感じる場面も見受けられます。

当院では 電子処方せんを開始しています！

電子処方せんとは、これまで紙で発行していた処方せんを電子化（データに変換）したものです。

処方せんの代わりに電子処方せんの控えの用紙を薬局へ持って行ってください



他の医療機関・薬局にもお薬の情報を共有できます

電子処方せんにするメリットって？

- ☑ 同じ成分のお薬をもらうことや良くないお薬の組み合わせを防ぐことができ、安心安全な医療につながります。
- ☑ マイナポータルでご自身の直近のお薬情報を確認することができます。



一方で、実務面では効率化にも役立っています。処方不備が生じた際、判子を押し直し、紙を差し替える、というアナログな手間が減ったことは、多忙なスタッフの負担を少し軽くしました。

2026年1月現在、石川県内の院外薬局の電子処方箋対応率は96.9%（金沢市内98%超）と、受け入れ体制はほぼ整っています。対して医療機関側の導入率は3割台に留まり、全国的にもいまだ過渡期にあります。

こうした様々な課題に今後も柔軟に対応し、先生方や地域の院外薬局との連携を深めながら、患者様により良い医療サービスを提供してまいりますと考えています。

《 ホスピタルギャラリー能登 》

事務局 主査 後藤 敬仁



昨年12月13日（土）、14日（日）の2日間にわたり、市立輪島病院にて「ホスピタルギャラリー能登」が開催され、当院も後援という形で参加させていただきました。輪島では初めての開催であったことや、地震や豪雨からの復興のさなかということもあり、作品は集まるのか？そもそも本当に求められているのか？など、様々な課題や不安がありました。しかし、絵画や写真等を中心に40点以上の出品があり、200名以上の方々にご来

場いただく結果となりました。作品はやはり能登を題材にしたものが多く、皆様の能登への深い思いを感じることができました。ご多忙の中、会場に足を運んでくださった住民の方、素晴らしい作品をご出品くださった先生方には、この場を借りて心より感謝申し上げます。

来場者からは「心が安らいだ」「元気をもらえた」といった温かいお声を多数いただくことができ、微力ながら、能登の皆様へ心の安らぎを提供することができたのではないかと感じております。今後も、皆様の健康と心の豊かさに貢献できるよう、地域と共に歩んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

《 当院における心不全看護の取り組み ～入院から在宅療養を見据えた切れ目のない支援～ 》

看護部 心不全看護認定看護師 笹谷 香織

日本では高齢化の進行に伴い、心不全患者は年々増加しており、「心不全パンデミック」と呼ばれる状況にあります。心不全は急性期治療のみで完結する疾患ではなく、増悪と寛解を繰り返しながら、長期にわたり生活と向き合っていく慢性疾患です。そのため、薬物療法に加えて、食事療法や生活管理、さらには退院後の在宅療養を見据えた継続的な支援が不可欠となります。

当院では私たち看護師をはじめ多くのスタッフは、心不全で入院された患者さんのみならず、心筋梗塞や不整脈など心不全発症のリスクを有する疾患の患者さんも対象に、心不全の増悪予防および発症予防を目的とした支援を行っています。特に心不全管理においては、患者さん自身によるセルフケアが極めて重要です。患者さんやご家族の思いや希望、生活背景を丁寧に把握したうえで、地域でその人らしい療養生活を継続できるよう日々関わっています。

心不全管理は、患者さん自身のセルフケアを再構築していくプロセスであり、決して一筋縄ではいきません。また、退院はゴールではなく、心不全管理の新たなスタートです。そのため、私たちは、患者さんがその人らしく生活を送り続けられるよう、セルフケアの再構築を大切にしながら継続した療養指導を行っています。

心不全の評価や多職種による介入が必要な場合には、どうぞお気軽にご相談ください。



《 第 20 回地域連携の会 開催報告 》

地域連携室 主査 門谷 美里

当院では、従来の登録医総会を「地域連携の会」と改め、開催いたしました。今回はこれからの地域医療を支える上で欠かせない存在である福祉関係機関の皆様にもご参加いただき、総勢 108 名が一堂に会する貴重な機会となりました。

会に際し、金沢市医師会長・半田内科医院の鍛冶恭介先生よりご来賓挨拶を、ながい内科クリニックの永井幸広先生より乾杯のご発声、そして羽柴クリニックの羽柴厚先生より中締めのご挨拶をいただきました。

「顔の見える関係づくり」を掲げた懇親会では、日頃の電話や書類越しの交流を超え、対面で現場の生の声を伺う重要性を再認識いたしました。こうした職種の垣根を超えた繋がりこそが、患者さんが地域で安心して暮らすための確固たる基盤になると確信しております。

今後も、多職種の方々が気軽に相談し合える風通しの良い連携体制を築いてまいり所存です。ご多忙の中ご出席いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後とも、地域を共に支える最良のパートナーとして、よろしくお願い申し上げます。

